

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年7月29日 日本瓦斯株式会社

AI



決算のポイント① 26/3期1Q実績(計画比)と見通し

営業利益は計画を上回った。電気が伸びて顧客獲得費が減。通期営業利益は据え置く

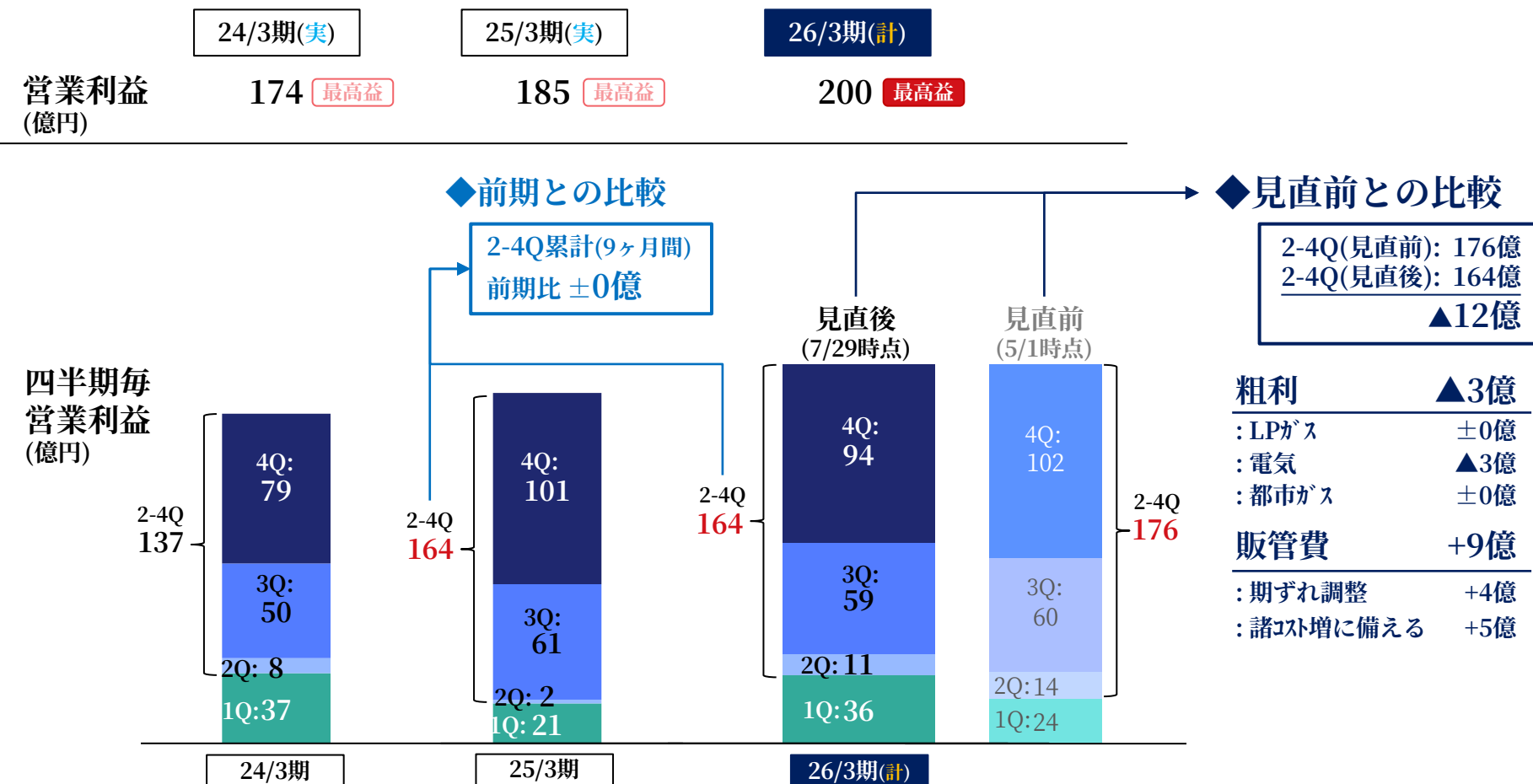
■ 営業利益は計画比+12億。粗利はLPと電気が伸びて同+3億。販管費は顧客獲得費減と一部経費の期ずれにより同▲9億。通期営業利益200億は据え置く。冬場の高気温や諸コストの増加に備える。

(億円)	26/3期(1Q/4-6月)		26/3期 通期計画		ポイント
	計画 (5/1時点)	実績	見直前	見直後	
粗利益	167	170	760	760	
LPガス	113	114	506	507	・1Q: 家庭用が販売量伸びて利益増 ・通期: 2-4Q大きな変更なし
電気	7	10	56	56	・1Q: 販売単価が上振れ ・通期: 2-4Qの経費上振れの可能性に備える
都市ガス	47	46	198	197	・1Q: 販売量伸びず
<u>内、スライムラック</u>	<u>+1.2</u>	<u>+1.4</u>	<u>+1.2</u>	<u>+2.1</u>	<スライムラック 影響> ・通期:新たに2Q想定(+0.7億)を計画に織り込む
販管費	143	134	560	560	・1Q: 顧客獲得費が計画下回った。一部経費の計上が2-4Qにずれ込む ・通期: 諸コストの増加に備え、通期計画は据え置く
営業利益	24	36	200	200	
純利益	17	26	140	140	・5年連続で過去最高益を計画
株主還元	-	-	203	203	・配当は113億、自社株買いは90億を計画
EPS	15.5円	24.1円	130.6円	130.6円	・26/3期は前期比+25%を計画

決算のポイント② 26/3期営業利益見通し

1Q営業利益は計画超え。2-4Qの高気温や諸コスト増加に備えて、通期200億に変更なし

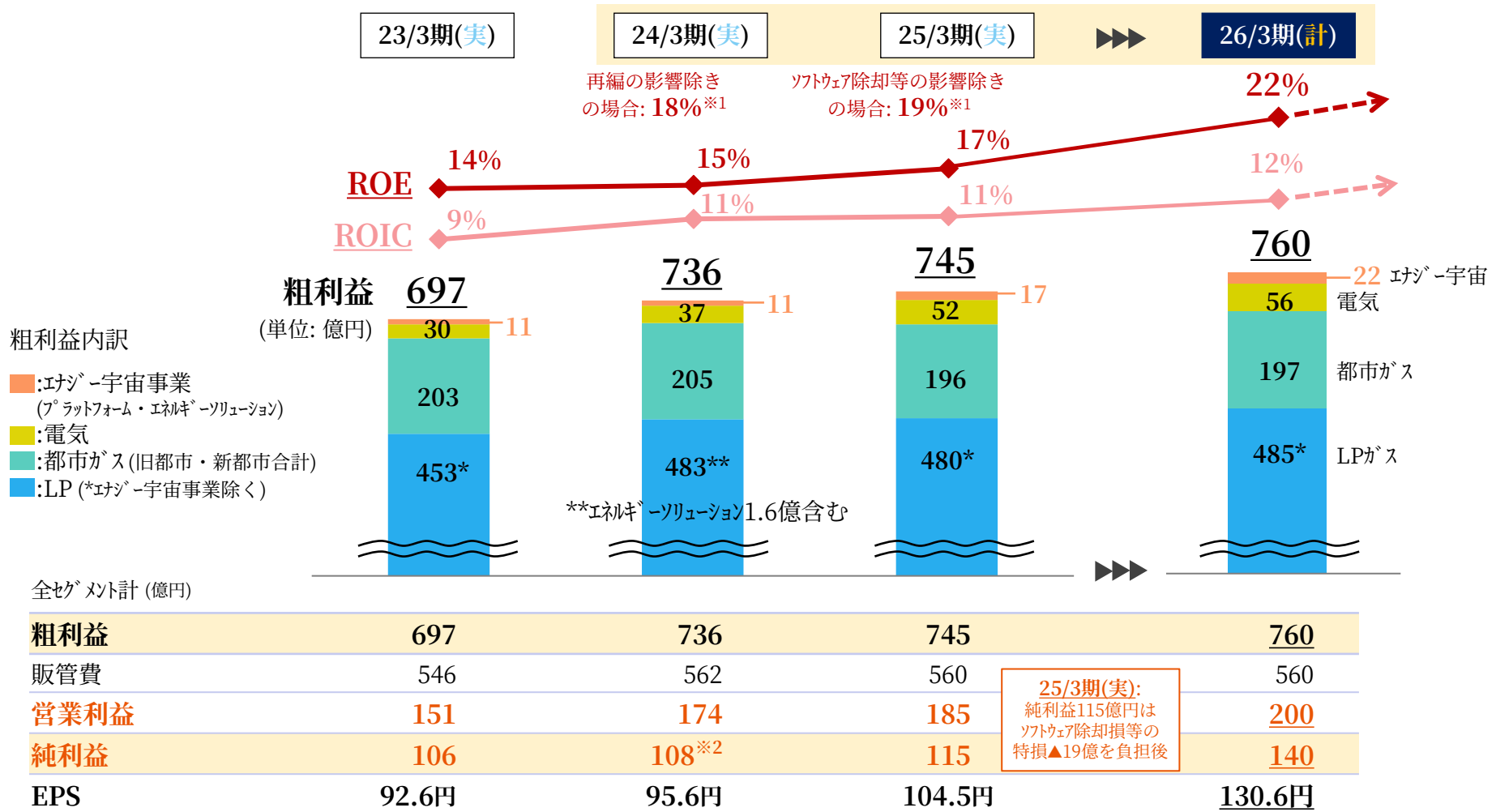
■ 1Q(4-6月)営業利益は計画を大きく上回ったが、通期計画200億は変えず。2-4Q(7-3月)の、顧客獲得の加速、諸コストの増加、および冬場の高気温の可能性に備える。



決算のポイント③ 3ヶ年計画(24/3~26/3期) 利益の詳細

26/3期は営業利益200億、ROE22%を達成する。資本最適化しながら純利益を伸ばす

■ 26/3期は3ヶ年計画の最終年、営業利益、ROE目標を達成する。次期中計の重要ポイントは、LPの業界集約とプラットフォーム事業の成長。



※1: 特損影響除きROEは対象となる特損(24/3期▲24億、25/3期▲19億)を純利益に単純合算し算出。税金は考慮せず ※2: 24/3期の純利益108億円は再編関連の特損▲24億を負担後

決算のポイント④ 3ヶ年計画 利益計画の前提

26/3期はLP・電気に加えて、都市ガス・エネルギー宇宙も粗利拡大

(億円)	23/3期 (実)	24/3期 (実)	25/3期 (実)	26/3期 (計)	期初計画(5/1時点)からの変更点
粗利(全セグメント合計)	697	736	745	760	
LPガス(機器工事含みエネルギー宇宙除く)	453	483	480	485	・484億→485億
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	973	997(+24)	1,030(+33)	1,070(+40)	
販売量(千トン) 家庭用/業務用	186/121	179/114	178/109	181/107	・業務用: 1Q実績踏まえ▲2千トン減らし見直す(109千トン→107千トン)
家庭用利幅(円/kg)	212	233	232	232	
都市ガス(機器工事含む)	203	205	196	197	・198億→197億
販売量(千トン) 家庭用・業務用計	378	365	344	342	・家庭用: 1Q実績踏まえ▲1千トン減らし見直す(343千トン→342千トン)
電気	30	37	52	56	
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	320	345(+25)	381(+35)	431(+50)	
販売量(GWh)	1,297	1,427	1,587	1,760	・1Q実績を踏まえ見直す(1,759GWh→1,760GWh)
利幅(円/kWh)	2.3	2.6	3.3	3.2	
エネルギー宇宙事業(プラットフォーム)	11	11	14	16	
エネルギー宇宙事業(エネルギーソリューション)	-	[1.6*]	3	6	

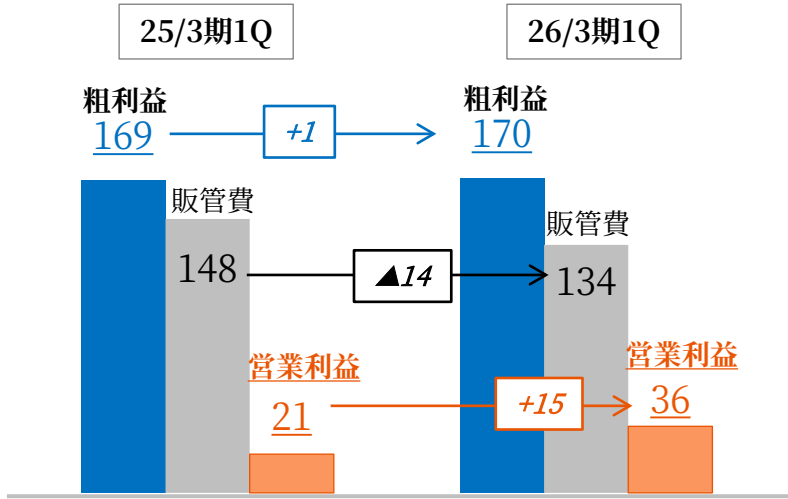
*LPガス粗利に含む

決算の実績① サマリー(25/4-6月) (前期比)

営業利益大幅増。 販管費は顧客獲得費が大きく減。 粗利はLPと電気が伸びて増益

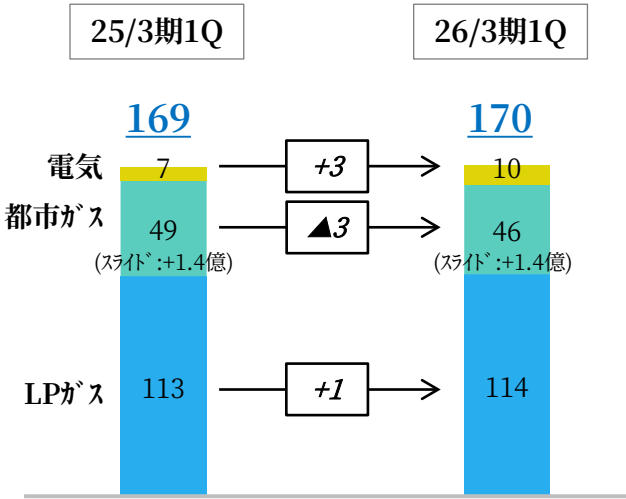
■ 営業利益は前期比+15億。 販管費は顧客獲得費が大幅減(同▲13億)、 営業方針を見直し戸建に注力して獲得コストが低下。 粗利は前期比+1億。 LPは家庭用が伸びて増、 電気は顧客増と利幅良化により伸長。 都市ガスは高気温影響で家庭用が減、 業務用は工業用が伸びず減。

粗利益/販管費/営業利益 (億円*)



粗利益内訳 (億円*)

*実数の単位未満は端数処理



全セグメント合計 (億円)	25/3期 (1Q/4-6月)	26/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント
粗利益	169	170	+1	
販管費	148	134	▲14	・ 顧客獲得費が前期比▲13億、1件あたり獲得コストも減
営業利益	21	36	+15	
販売量(千トン) LPガス	69	68	▲1	・ 家庭用は顧客増により伸長。業務用が減、低採算の取引を見直した
都市ガス	79	77	▲2	・ 家庭用は高気温影響で減、業務用は工業用の製品需要が伸びず減
電気(GWh)	285	322	+37	・ 前期比+13%、顧客増により伸長。単位消費量はほぼ前期並

決算の実績② 販管費明細

1Qは計画を大きく下回った。2-4Qの諸コスト増加に備え、通期計画560億は変更しない

■ 1Q販管費は計画比▲9億。内4億は、IT費用やガス関連機材等の計上時期が2Q以降にずれ込む影響。残り5億の内、顧客獲得費の減少が同▲3億。 2-4Qの諸コスト増加に備えて通期計画560億は据え置く。

*実数の単位未満は端数処理。進捗(%)は億円表示処理後で算出

販管費明細 (億円)	26/3期		進捗 *対通期計	ポイント	25/3期	
	(通期計)	(1Q実)			(通期実)	(1Q実)
1. 人件費	148	35	24%	・昇給率は4.5%。従業員あたりを増やす方針	141	35
2. 減価償却費 (*i)	82	20	24%		83	20
3. 顧客獲得費用 (*ii)	59	12	20%	・計画比▲3億、2-4Qの増加に備える。前期比▲13億、省令改正で前期2Qから大きく減	64	25
4. IT費用	44	12	27%	・計画比▲1億、2Q以降に計上ずれ込む。システムの投資効率見直し、運用費を削減	49	13
5. 手数料等 (*iii)	48	13	27%	・前期比+1億、人件費上昇等で外注に係る諸手数料が増加	48	12
6. ガス関連機材等	36	8	22%	・計画比▲2億、2Q以降に計上ずれ込む。26/3期はボンプの効率配置を進めてコストを抑制	36	10
7. ガスボンプ運搬費	34	8	24%	・AI活用により配送ルートや配送タイミングを最適化。顧客増に対して配送コストを抑制	33	8
8. 修繕費用 (*iv)	21	4	19%		19	5
9. 租税公課・事業税	20	5	25%		20	5
10. 通信費 (*v)	11	3	27%		11	3
11. 広告宣伝費	11	2	18%	・計画比▲1億、2Q以降に計上ずれ込む。コミュニティに向けた宣伝やWeb広告を強化	9	2
12. 旅費交通費	7	2	29%		7	2
13. コールセンター	5	1	20%		6	1
14. その他	34	9	26%		34	8
合計	560	134	24%		560	148

(*i) IT関連の償却は「4. IT費用」、のれんの償却は「14. その他」に計上 (*ii) 顧客獲得費用はLPガス、都市ガス、電気に係る営業費用とサービス品の合計
(*iii) 24/3期から「保安・検針費等」を「5. 手数料等」に統合 (*iv) ボンプや機材等の修繕費、ボンプ検査費用 (*v) 顧客とのコミュニケーション費用、スペース蛍通信費用

決算の実績③ LPガス事業(前期比)

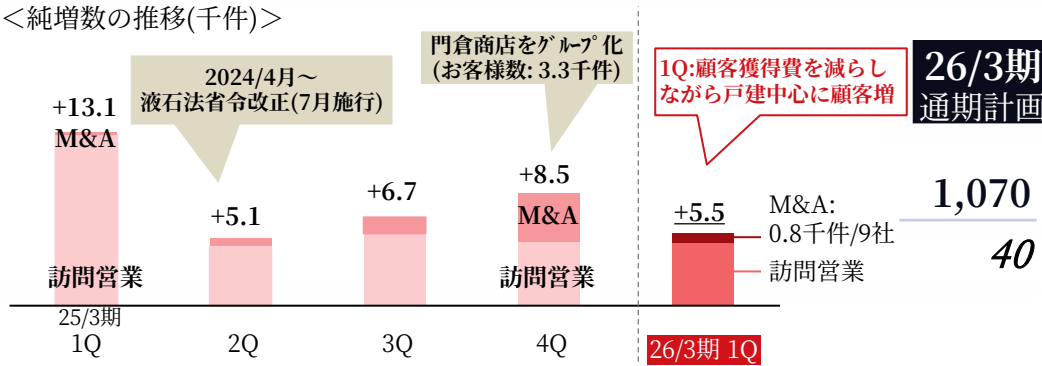
粗利増益。家庭用が顧客増で伸長、業務用は取引採算を重視。お客様純増数は6千件

- 粗利は前期比+1億。家庭用が顧客増により販売量伸長、単位消費量は前期並。業務用は原価が影響して前期比で利幅縮小、取引採算を重視して販売量は減。1Qお客様純増数は6千件。
- 省令改正に伴い戸建住宅中心にお客様数を増加させながら、獲得単価を抑え顧客獲得費を減。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

LPガス(億円)	25/3期 (1Q/4-6月)	26/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	113	114	+1		507
内、ガス	105	104	▲1	・粗利:家庭用が前期比+1億、業務用が同▲2億 ・利幅:家庭用は原価が前期比高く利幅縮小。業務用も原価が影響した。 家庭用の割合が高まり全体で利幅良化	460
kgあたり(家庭用+業務用)	152円	153円	+1円		160円 (家庭用+業務用)
内、プラットフォーム(PF)	3.5	4.1	+0.6	・保安PFがエリア拡大で利益増	16
内、機器その他(内、エネルギーソリューション)5(0.6)		6(0.9)	+1(+0.3)	・門倉商店を連結	31(6)
ガス販売量(千トン)	69	68	▲1		288
家庭用	41	42	+1	・家庭用:顧客増により前期比増。単位消費量は前期並	181
業務用	28	26	▲2	・業務用:低採算の取引を減らし前期比減	107

LPガス	25/3期 (1Q/4-6月)	26/3期 (1Q/4-6月)	増減
お客様数(千件)(6月末時点)	1,010	1,036	+26
純増数(千件)	13	6	▲7

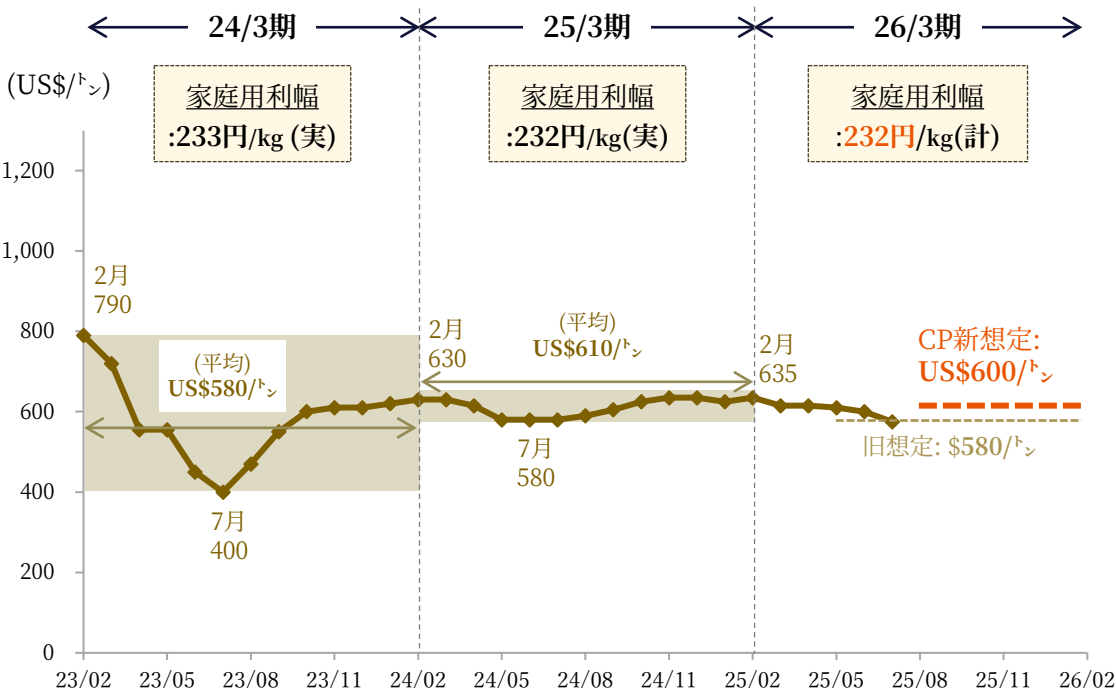


LPガス原料価格(CP)の推移

1Q原価は概ね想定通り。2Q以降、原価想定は大きく変わらず、通期利幅計画に変更なし

■ 1Q(4-6月)原価は概ね想定通り。2-4Q(7-3月)の原価想定は大きく変わらず、25/8月以降のCPはUS\$600/トン、為替は145円/US\$を想定。通期利幅計画は232円/kgに変更なし。

LPガス原料価格(CP)の推移



為替相場(TTS)



(US\$/トン)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2023年	590	790	720	555	555	450	400	470	550	600	610	610
2024年	620	630	630	615	580	580	580	590	605	625	635	635
2025年	625	635	615	615	610	600	575					

*ハイライトは26/3期1Qの原価
 * CPは概ね2~3ヶ月後の原価を構成
 * ほぼタイムラグなく販売価格改定可能
 (商品の性質上、対象外もあり)

決算の実績④ 電気事業(前期比)

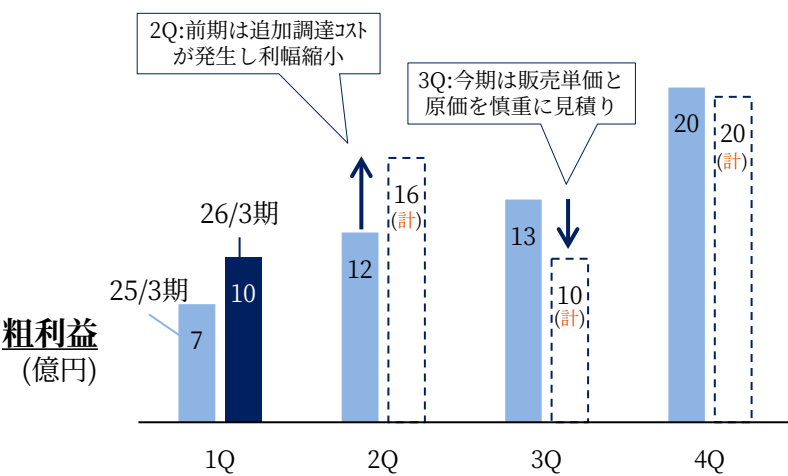
粗利増益、計画も上回った。通期56億は据え置く。販促キャンペーン開始で顧客獲得を加速

- 粗利は前期比+3億。顧客増で販売量が伸長。利幅は販売単価が高まり良化。利益の進捗は計画比上振れだが、2-4Q経費増の可能性に備えて、通期計画は56億に据え置く。
- 1Qお客様純増数は8千件。Web獲得が順調に増加。販促キャンペーンも開始し、純増数を伸ばす。

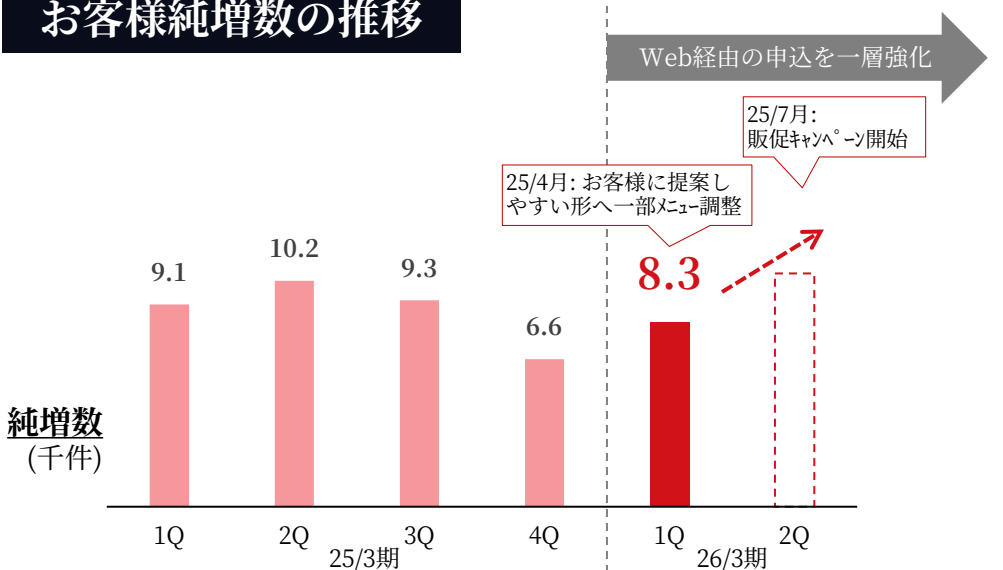
電気	25/3期 (10/4-6月)	26/3期 (10/4-6月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益(億円)	7	10	+3	・利幅: 販売単価が伸びて利幅良化。春先の単位消費量が伸びて販売単価が高まった。販売単価は使用量増加に伴い段階的に上昇する	56
kWhあたり	2.5円	3.1円	+0.6円		3.2円
お客様数(千件)(6月末時点)	355	389	+34	・電気セット率24%(前期比+2%) ・7月から販促キャンペーンを開始	431
純増数(千件)	9	8	▲1		50
電気販売量(GWh)	285	322	+37	・お客様数増により販売量伸長。単位消費量はほぼ前期並	1,760

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円・千件表示処理後で算出

四半期毎の粗利益の推移



お客様純増数の推移



決算の実績⑤ 都市ガス事業(前期比)

粗利は前期比▲3億。家庭用と業務用の販売量が減。お客様純増数はプラスに転じて伸長

■粗利は前期比▲3億。家庭用が高気温影響で販売量減、2Q以降は顧客増による販売増を見込む。業務用は大口需要が伸びず減。1Qのお客様純増数は4千件。25/2月にプラスに転じて以降、純増が継続。長期契約の増加による解約減に加えて、コミュニティを通じた営業施策が顧客増に貢献。

*実数の単位未満は端数処理 *増減は億円表示処理後で算出

都市ガス(億円)	25/3期 (1Q/4-6月)	26/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	49	46	▲3		197
内、ガス	43	41	▲2		175
内、スライptimeラ	内、+1.4	+1.4	0	・1Q(4-6月)スライptimeラ影響は+1.4億(想定比+0.2億) ・2Q(7-9月)想定+0.7億を通期計画に新たに織り込む	内、+2.1
内、託送収益等	3	3	0		11
内、機器・工事等	3	2	▲1		11
ガス販売量(千ト)	79	77	▲2		342
家庭用	34	33	▲1	・家庭用: 高気温影響で単位消費量が伸びず。お客様数は微増	151
業務用	45	44	▲1	・業務用: 前期比減。工業用の国内向け製品需要が伸びず	191

				<顧客純増数の推移(千件)>											
				・都市ガス純増数が25/3期4Qでプラスに転じ、1Q(4-6月)も純増が継続											
6月末時点の 小売件数/純増数(千件)	593/▲8	594/+4	+1/+12	24/3期 1Q	2Q	3Q	4Q	25/3期 1Q	2Q	3Q	4Q	26/3期 1Q	610/+20		
内、旧都市	387/+1	389/0	+2/▲1	▲14.2	▲9.2	▲6.3	▲9.1	▲7.6	▲3.6	▲2.1	+2.6	+4.0	394/+5		
内、新都市	206/▲8	205/+4	▲1/+12	上期 ▲23.4千件		下期 ▲15.4千件		上期 ▲11.2千件		下期 +0.5千件			216/+15		

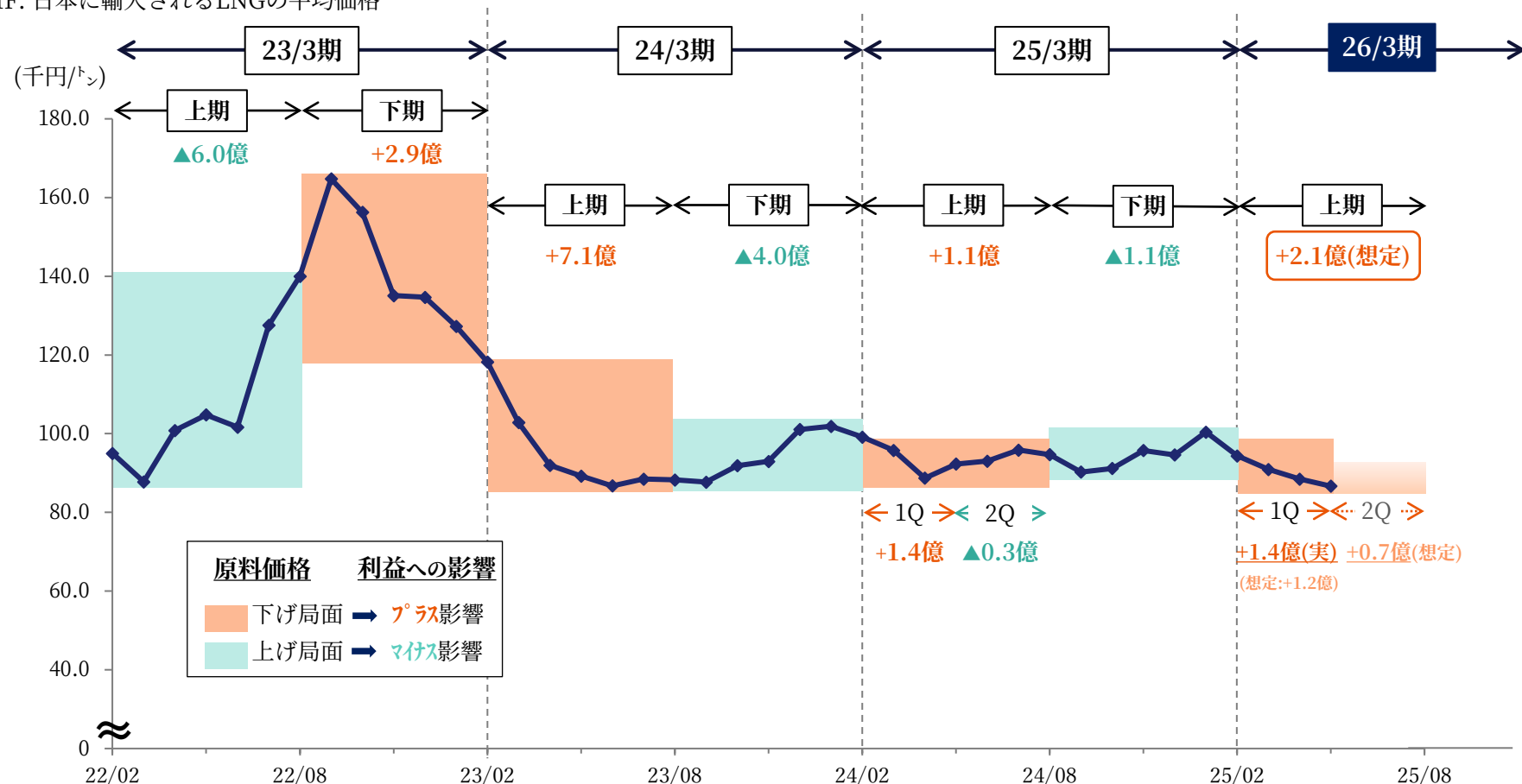
都市ガス原料費調整(スライドタイムラグ)の影響

1Q(4-6月)スライド影響は+1.4億。新たに2Q(7-9月)想定+0.7億を通期計画に織り込む

- 1Q(4-6月)スライド影響は+1.4億、前期1Q並の水準。25/1月以降の原料価格は緩やかに下落。
- 2Q(7-9月)原料価格は大きな変動を見込まず、2Q想定+0.7億を通期計画に新たに織り込む。

LNG原料価格(CIF)*の推移

*CIF: 日本に輸入されるLNGの平均価格



決算の実績⑥ エナジー宇宙事業

通期22億に向け概ね計画通り。保安PFは対応エリア拡大で利益増、LP競合向けも始める

- プラットフォーム(PF)：保安PFの都市ガス向けの受託エリアが拡大。今期中に大口のLP保安受託も開始する。
- エネルギーソリューション：ハイブリッド給湯器販売台数は前期比+0.3千台、全体の採算性も改善傾向。通期8千台の販売に向け、新築集合住宅向けの販売も拡大する。

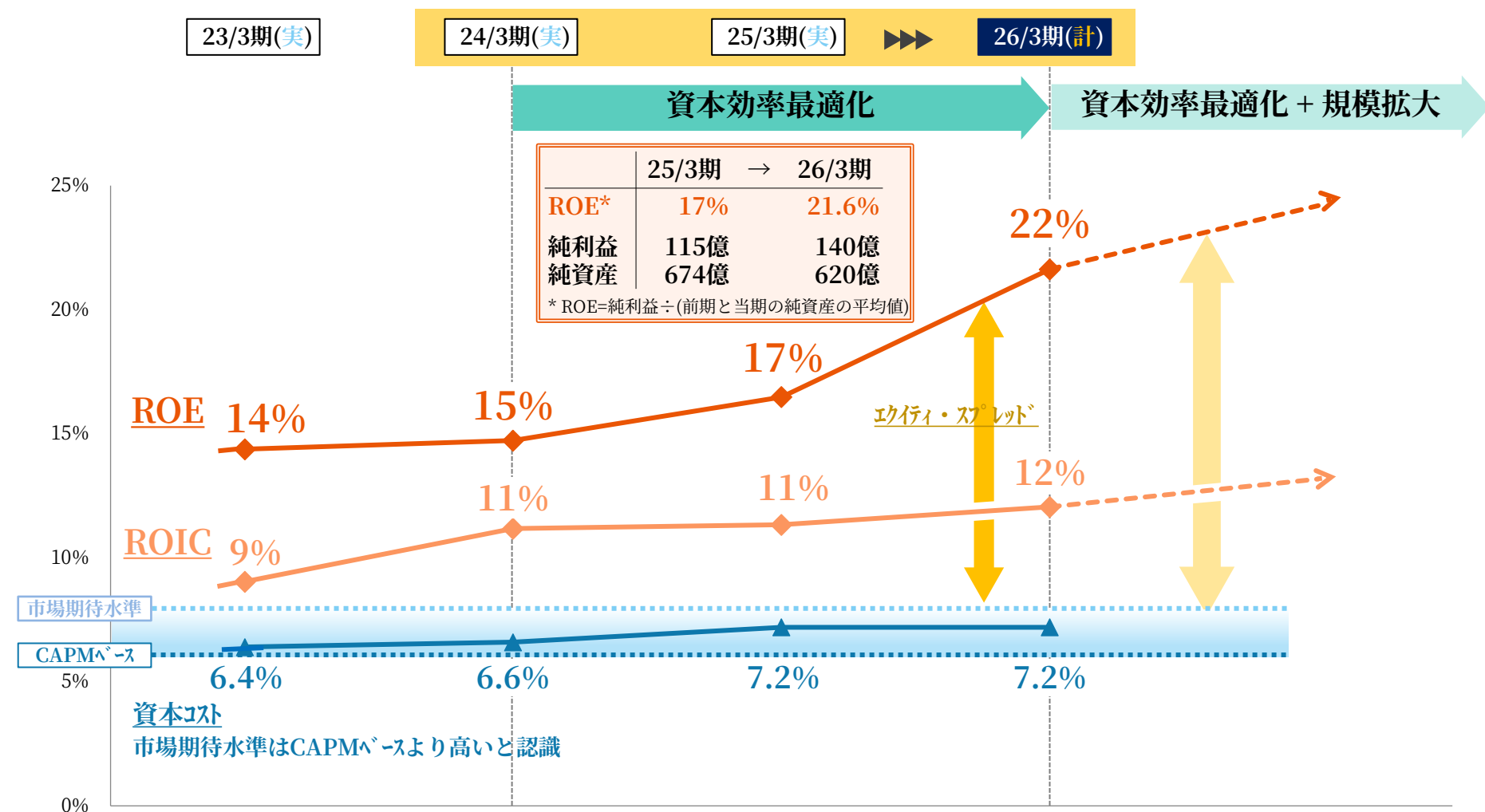
プラットフォーム(億円)		25/3期		26/3期		ポイント
		(1Q実)		(1Q実)	(通期計)	
粗利益		3.5		4.1	16	■新保安PF: - 都市ガス向けの保安受託エリアを拡大し、受託件数が増(前期比+10%)。現地に出向かないリモート保安で全体の生産性も向上 - LP向けの大口保安受託も開始予定。全国的に保安業務の担い手不足が深刻化。競合他社からの保安PFに対する関心が高まっている
1). LPG託送 (スペース蛸、充填・配送、新保安PF)		1.0		2.0	6	
2). 新都市PF、PFアプリ、工事PF等		2.5		2.1	10	
エネルギーソリューション(億円)		25/3期		26/3期		■ハイブリッド給湯器販売台数(千台) 26/3期1Qは前期比+0.3千台、概ね想定通りの進捗 - 通期8千台販売に向け、新築集合住宅向け機器の販売も拡大する
		(1Q実)		(1Q実)	(通期計)	
粗利益		0.6		0.9	6	
ハイブリッド給湯器(台)		1.2千		1.5千	8千	

期	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
24/3期	2.1	1.2	1.2	1.2	6.2
25/3期	1.2	1.2	1.2	1.2	5.3
26/3期	1.5	1.5			8.0 (計)

資本戦略① ROIC・ROEの計画 (24/3期-26/3期)

26/3期はROIC12%、ROE22%を計画。27/3期以降もROEの更なる向上を目指す

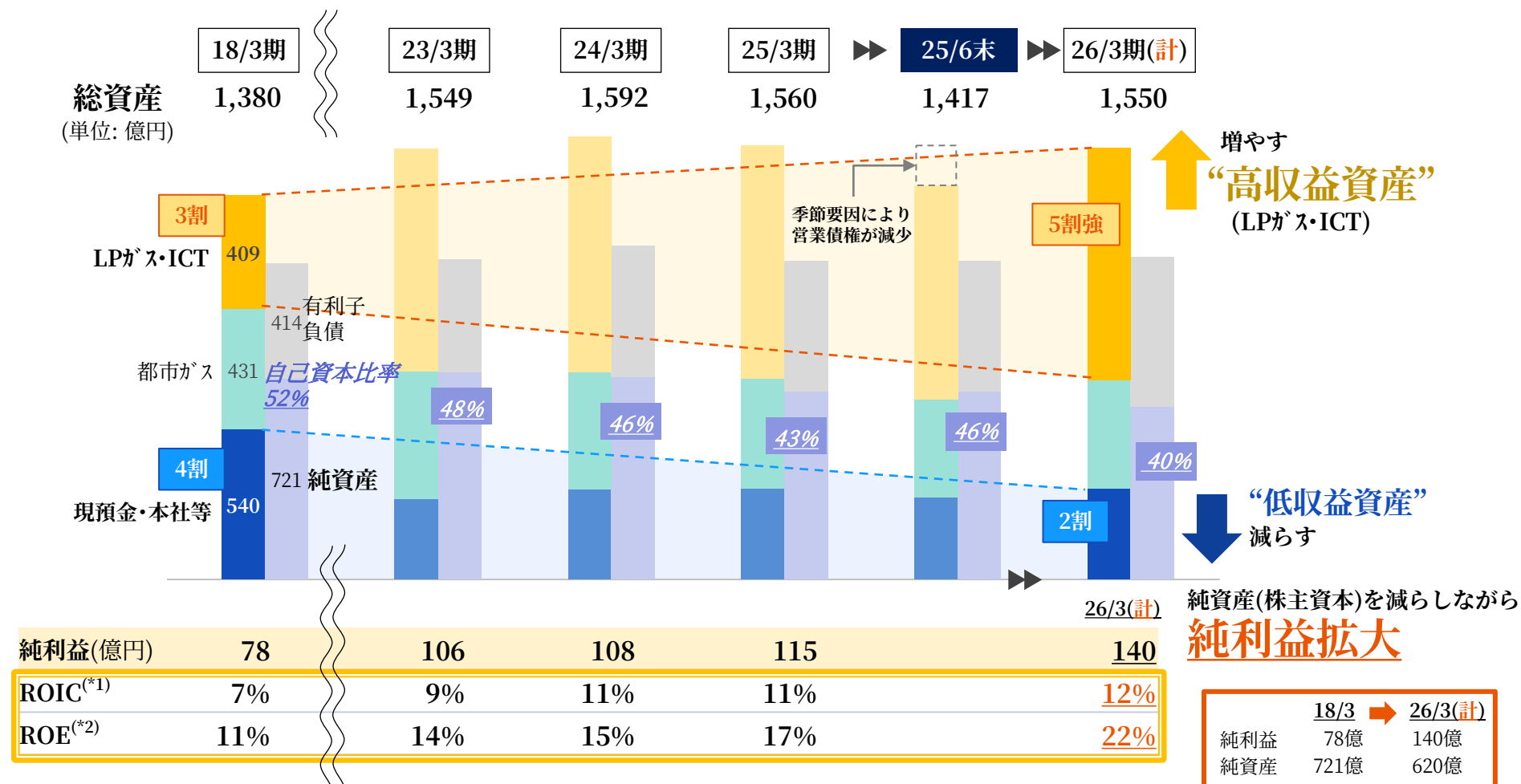
■ 26/3期のROE22%は、ROIC向上と資本構成最適化により達成する。27/3期以降も不必要な株主資本は持たない方針を継続し、業界集約を通じて規模を拡大しながらROE向上を目指す。



資本戦略② B/S

資産規模を大きく変えずROICを向上。さらに株主資本を最適化しながら純利益を拡大

■ 26/3期はROIC12%、ROE22%を計画。資産の入替により総資産を大きく増やさずにROICを高めてきた。さらに自己資本比率を40%まで最適化しながら純利益を拡大し、ROEを向上させる。



(*) ROIC=NOPAT÷(前期と当期の“有利子負債+純資産”の平均値) (**) ROE=純利益÷(前期と当期の純資産の平均値) (**) 小数点第1位を四捨五入

資本戦略③ 資本調達(自己資本比率)最適化

自己資本比率を40%に引き下げる。3年間で資産規模は変えず、資本構成を最適化

■ 24/3期~26/3期の3年間で自己資本比率を48%→40%に引き下げて最適化。所要自己資本の減少に伴う不必要な株主資本は還元する。財務基盤は十分、大型M&Aの資金調達は柔軟に対応する。

23/3期(実)

24/3期(実)

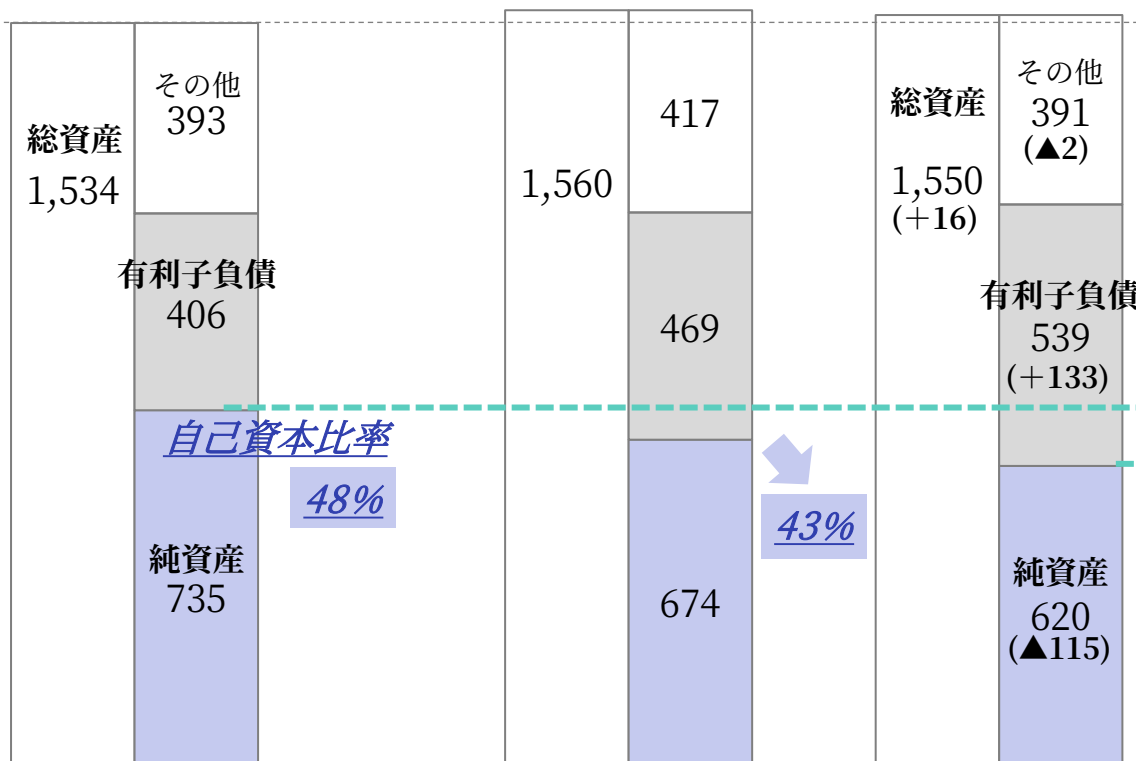
25/3期(実)

26/3期(計)

※23/3期の数字は都市ガス収益認識基準適用前。
短信(収益認識基準ベース)の数値と異なる。

※括弧内の数字は23/3期比

(単位: 億円)



資本最適化による還元

- 資産規模変えず、自己資本比率を48%→40%に引き下げる
- ↓
- 所要自己資本は減少
735億 - 620億 = 115億
- ↓
- 不必要な株主資本は還元する
(総還元性向100%超)

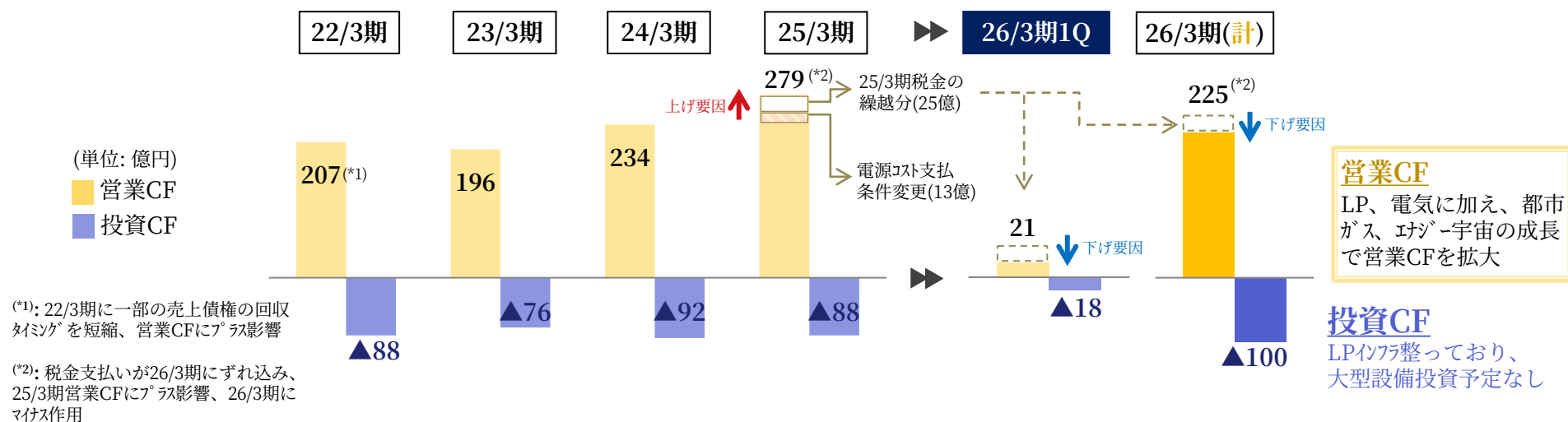
115億 (還元額)

自己資本比率最適化
48%→40%

資本戦略④ Cash Flow

26/3期営業CFは前期のプラス影響が解消し減。投資CFは大規模インフラ投資の予定なし

- 1Qの営業CFは21億(前期比▲32億)。前期の税金支払いが今期にずれ込み、営業CFにマイナス作用。1Qの投資CFは前期並。LPのインフラ整っており大規模投資は予定しない。



FCF	+119	+120	+142	+191	+3	+125
財務CF	▲74	▲161	▲87	▲184	▲64	▲125

投資内訳(億円)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期1Q	26/3期(計)
LPG	34	16	25	24	3	45
内、LP 商圏買収	内、3	3	5	11	1	内、25 内、▲9
ICT	21	29	30	21	4	10
旧都市	43	33	41	45	11	45
その他(投資有価証券等)	▲10*	▲2*	▲5*	▲2*	0	0

(債却) ▲40

✓LPG: M&A投資は必要に応じて積み増す

✓ICT: 新規投資は漸減、25/3期からは運用フェーズへ

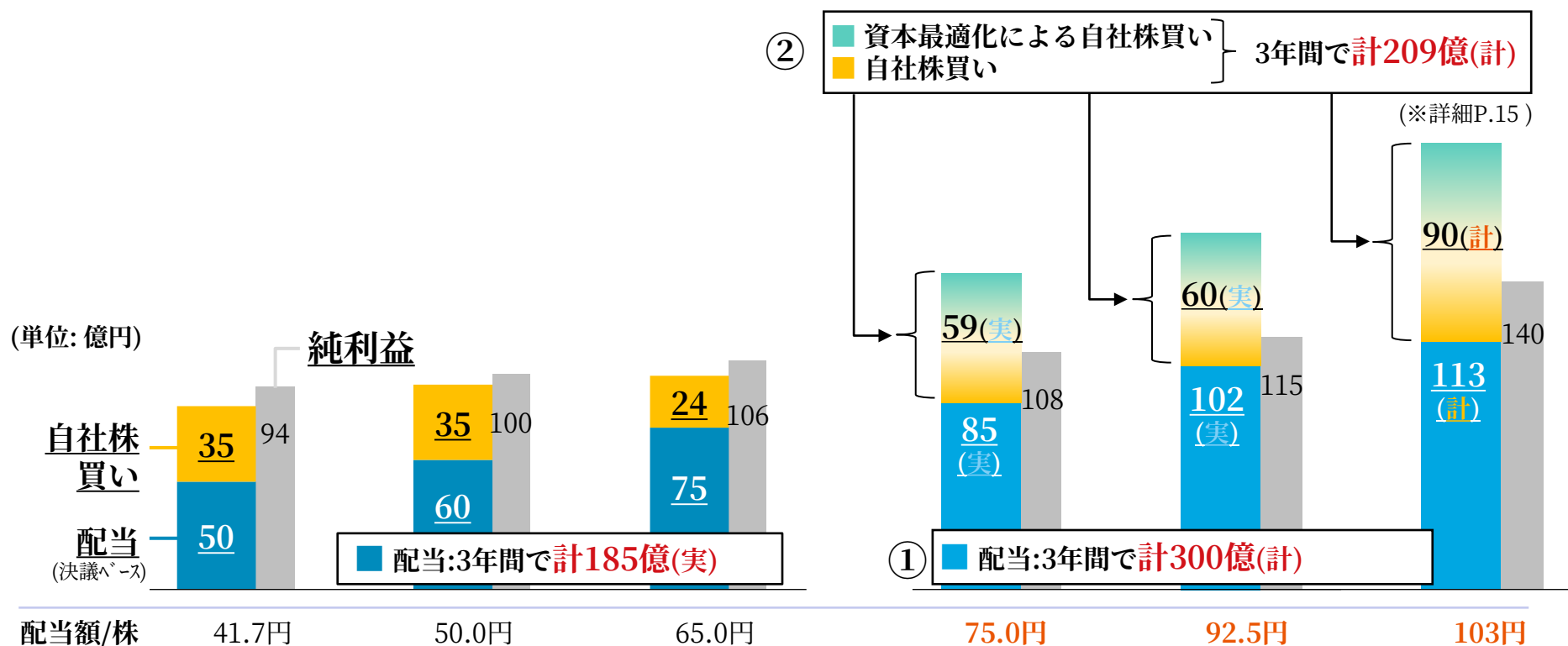
(*マインス表記はキャッシュフローにプラス)

資本戦略⑤ 株主様への還元

26/3期総還元性向は145%を計画。不必要な株主資本は持たず、還元は配当増に重点

■ 26/3期の総還元性向は145%を計画。配当は103円/株に増配(前期比+10.5円)。自社株買いは90億円を計画している。不必要な株主資本は持たない。還元により資本構成を最適化する。

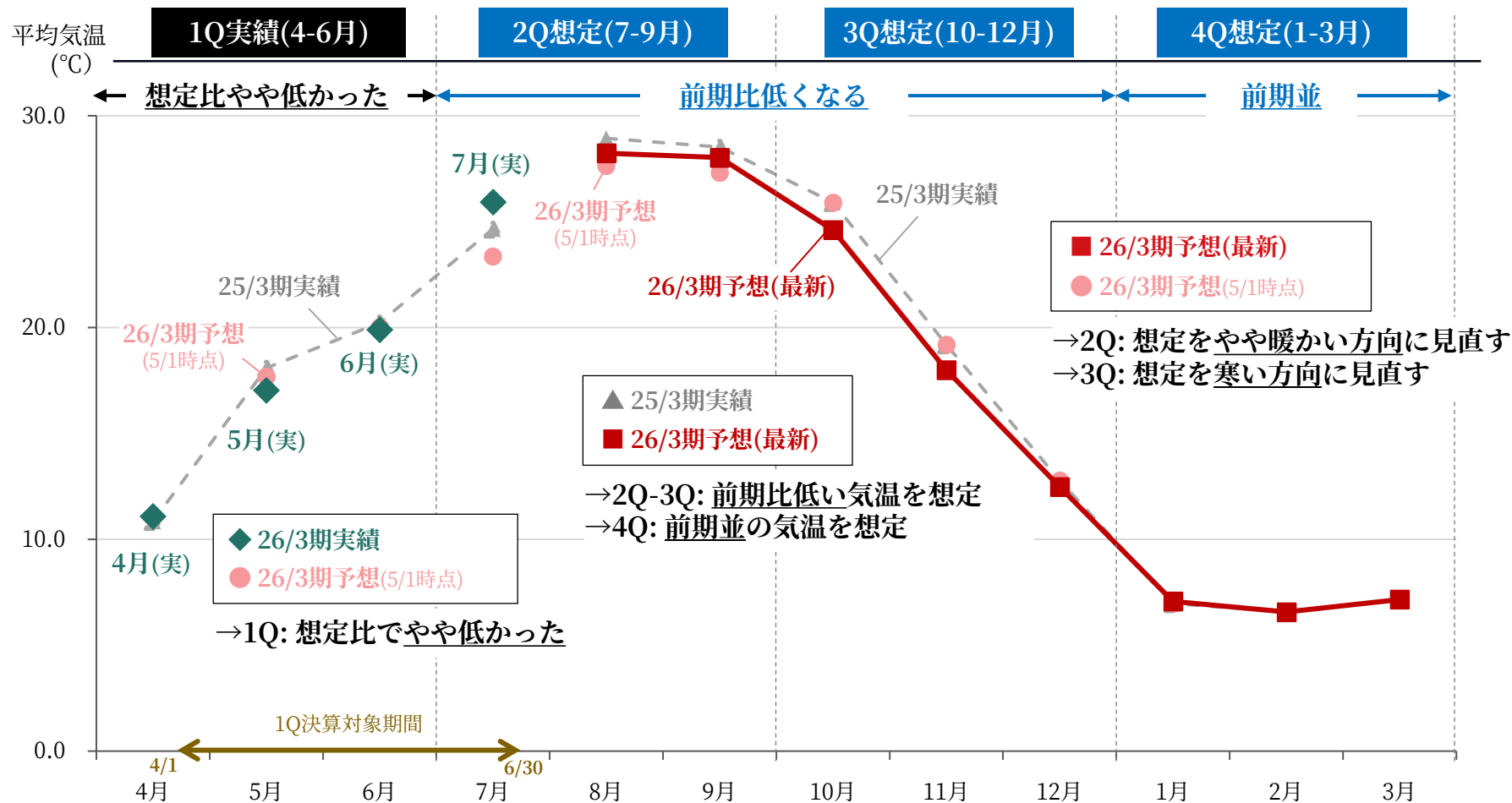
	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期(実)	25/3期(実)	26/3期(計)
総還元性向	90%	95%	93%	133%	141%	145%(計)
				← 3年間通算して100%超 →		



平均気温

1Q気温は想定比でやや低かった。2Q予想はやや暖かい方向、3Qは寒い方向に見直す

- 1Q平均気温は想定比やや低かった。7月実績(6月後半含む)は高気温続き想定を上回る暑さとなった。
- 2-3Qは前期比低い気温を想定。2Qはやや暖かい方向に、3Qは寒い方向に想定見直す。単位消費量は冬場の高気温に備えて、感応度の想定より慎重に見積もる。



(*)26/3期の気温予想は、専門情報機関の情報に基づき当社作成。

(*)2:気温実績は東京都の平均気温(参照元:気象庁ホームページ)

26/3期の利益計画詳細

大きな変更はない。1Q実績を反映し、2-4Qの冬場の高気温や諸コスト増に備える

	上期 (4-9月)				下期 (10-3月)				通期計画	
	25/3 (実)	26/3(計)		コメント	25/3 (実)	26/3(計)		コメント	26/3(計)	
		見直前	見直後			見直前	見直後		見直前	見直後
LPガス(家庭用)		(5/1発表)(7/29発表)				(5/1発表)(7/29発表)			(5/1発表)(7/29発表)	
粗利益(億円)	172	173	174		243	247	247		420	421
販売量(千トン)	65	66	66		113	115	115	• 原価想定は大きく変えず。CP: US\$600/トン、為替:145円/US\$を想定	181	181
利幅(円/kg)	266円	262円	263円	• 2Q: 想定は大きく変えず	214円	215円	214円		232円	232円
単位消費量(kg/件)	76kg	75kg	76kg	• 2Q: 想定は大きく変えず。感応度の想定より慎重に見積る	132kg	129kg	130kg	• 3Q: 前期比寒くなる想定。感応度の想定より慎重に見積る	204kg	206kg
LPガス(業務用)										
粗利益(億円)	17	17	16		23	23	23		40	39
販売量(千トン)	52	52	50		57	57	57		109	107
都市ガス										
粗利益(億円)	73	74	73	• 2Q: スラット 影響(+0.7億)のみ織り込む	101	102	102		176	175
販売量(千トン)	147	145	144	• 2Q: 感応度の想定より慎重に見積る	197	198	198	• 3Q: 前期比寒くなる想定。感応度の想定より慎重に見積る	343	342
電気(主に家庭用)										
粗利益(億円)	19	24	26		33	32	30		56	56
販売量(GWh)	717	798	799		870	961	961		1,759	1,760
利幅(円/kWh)	2.6円	3.0円	3.2円	• 2Q: 経費増の可能性に備える	3.9円	3.3円	3.1円	• 経費増の可能性に備える	3.2円	3.2円